

平成 21 年度 教養ゼミ実施状況（前期）報告書

経済学部	p 1
人間文化学部	p 2-4
工学部	p 5-9
生命工学部	p 10-16
薬学部	p 17-23

経済学部

教養ゼミ担当者氏名（代表） 富士彰夫

1、ゼミ数とゼミの学生数

ゼミ数 22、学生数 10名弱～15名

2、前期実施内容（各回の内容等）

授業内容を標準化するとの議論があったが、結局今年度は、導入教育として必要な技能・態度を身につけさせること、大学生の心構え、図書館の使い方、ノートの取り方、プレゼンテーション方法等大学で学習を行うに当たり必要な基本技能を習得させること、等を念頭に置き担当教員に任せることとなった。

回数は7回で内容は、自己紹介、自己PR、ノートのとり方、課題発表、ディスカッション、レポート作成、PC 関連スキル、図書館の利用、検索調査、コミュニケーションスキル等で、個々にテキストを選択し使用するゼミもあった。

3、前期教養ゼミの成果等

自主性、コミュニケーションの向上が見られた。

学生間、また教員との親睦がとれた。

成功体験者の経歴書物を輪読することで刺激になった。

学習態度、マナーが良くなった。

各種学習スキルについて理解できた。等

4、問題点、改善策、後期での対応等

学習に対する熱意が感じられない。

欠席が多い学生がいた。

無断で欠席する学生がいた。

皆となじめない学生がいた。

テキストの選定が良くなかった。

5時限は、学生の集中できる時限でない。

隔週より毎週にした方が効果的である。

学生の読書量が少ない。

等の問題点があり今後、その対応を行っていく。

5、その他

人間文化学部 心理学科

教養ゼミ担当者氏名（代表）

山崎理央（配布資料取りまとめ係。次年度からは1年担任が担当予定）

1、ゼミ数とゼミの学生数

ゼミ数：6

ゼミの学生数：各5～6名

2、前期実施内容（各回の内容等）

テーマ：ピア・サポート訓練

主な内容：ピア・サポートとは／自己紹介ゲーム、自分自身について知ろう、一方通行と双方向のコミュニケーション、傾聴について／聴き方のロールプレイ、話し合ってみよう／大切なものランキング、ストレスへの対処、まとめ（その他に、19号館案内、PC室案内、図書館案内を実施）

3、前期教養ゼミの成果等

サポートのためのスキル（傾聴、コミュニケーションなど）の訓練を行なった。
学生同士の関係を築き、互いに思いやりをもって支え合う雰囲気を
学生の間で高めていくことができた。

4、問題点、改善策、後期での対応等

教養ゼミは前期のみ開講だが、（学年担任だけでなく）各ゼミ担当教員が後期も
引き続き、自分が担当した学生との連絡や履修上の指導に関わるようにしている。

5、その他

人間文化学部 人間文化学科

教養ゼミ担当者氏名（代表）重迫隆司（Aクラス） 引野亨輔（Bクラス）

1 人間文化学科1年次生をA・Bクラスに2分割（各 14名・15名）

2 内容はシラバス通り。

人間文化学科の全教員がオムニバス形式で授業担当。

授業の共通課題は以下の通り。

- 1 大学生として最低限必要な文章表現能力の獲得。
 - 2 小人数体制のゼミでないと身に付けにくいプレゼンテーション能力の向上。
 - 3 専門科目履修が少ない1年次生と学科教員の交流
- 3 1年次生が専門科目へと進むための導入的役割を果たした。
- 4 教養ゼミと日本語表現法1との統合が望ましい。

人間文化学部 メディア情報文化学科

教養ゼミ担当者氏名（代表）：渡辺浩司

1、ゼミ数とゼミの学生数

ゼミ数：5（三宅（6）、田中（5）、渡辺（5）、内垣戸（5）、飯田（5））
ただし、（）内は学生数

2、前期実施内容（各回の内容等）

全教員のゼミにおいて順番の入れ替えはあったものの、おおよそシラバス通り実施した。
ただし、各ゼミにおいて

- ・各週一人を当番にしてゼミを進めた。
- ・心理学科に協力を依頼し、仲間作りのための『ピア・サポート』プログラムをゼミに取り入れた。
- ・情報リテラシーの一環として、初歩的なプログラミングの学習を導入した等、独自の内容を織り交ぜての実施となった。

3、前期教養ゼミの成果等

ゼミのねらいである、受講者の将来の夢や目標を実現するために本学科で何を学ぶかを明確にする、メディアや情報に関する職業と学科の教育目標の関係が説明できるようになるという点はおおよそ達成できた。さらにゼミを少人数編成で行った結果、「仲間作り」という点においても非常に有効であったと思われる。

4、問題点、改善策、後期での対応等

後期は学科の専門科目である基礎演習などで引き続き初年次導入教育およびスキル教育を実施していく予定である。

今年度の問題点としては、仲間作りには利点であった少人数編成であるが、大人数の前でのプレゼンテーションや、グループディスカッションなどの実施は困難であり、これらは学科全体でまとまって実施したほうがより効果的であったと考えられる。この点については来年度以降の検討課題としたい。

5、その他

工学部 機械システム工学科

教養ゼミ担当者氏名（代表） 鶴崎 展

1、ゼミ数とゼミの学生数

ゼミ数は9、ゼミの全学生数は37名。

一つのゼミあたりの学生数は3～5名である。ゼミ配属は学生の希望に基づき、調整して決定した。

2、前期実施内容（各回の内容等）

第1回：教養ゼミに関する全般的な説明、取り組み方について説明（合同）

第2回：高校数学レベルの実力テスト実施。（合同）

授業を進めるうえで、教員が把握しておくべき資料として、試験結果は全教員に提示した。

第3回以降は、各ゼミに配属して実施した。これは各ゼミの特徴を生かした内容となっている。

各ゼミは、おおむね隔週実施で、現在までに5回から8回実施した。

ゼミ内容の特徴は、

(1) 日本刀の科学

(2) エクセルで工学問題を解く

（エクセルを利用して工学問題を解く）

(3) 自動車コンポーネントの歴史

（自動車用コンポーネントに関する情報収集）

(4) 基礎力養成ゼミ

（SPI演習、一般常識問題を解く）

(5) 式に親しもう

（エクセルを利用した初等数学の学習）

(6) 探求してみよう

（環境を利用した新エネルギーシステムの探求）

(7) おもしろ物理現象

（SPI演習、物理学の基礎学習）

(8) モノづくりを楽しもう

（産業界のモノづくりを学ぶ）

(9) スポーツを進化させた新素材

となっているが、単に、上記テーマを学習するだけではなく、

平成 21 年度 教養ゼミ実施状況（前期）

- (a) 自立的に学習する習慣を身につけさせる。
- (b) 探求結果を報告書にまとめて発表する方法を学ばせる。
- (c) 学生同士や教員とのコミュニケーション力を高める。
- (d) 苦手な数学や物理学の補習（専門科目履修に向けての準備）。
- (e) 将来の就職活動に向けての基礎学力向上。

などを念頭に置いたゼミ内容となっている。

6、前期教養ゼミの成果等

現在までの成果として

- (1) 自立的に学習する習慣が徐々に見え始めた。
- (2) 基礎学力の大切さを理解した。
- (3) 物理や数学に対する関心が高まった。
- (4) モノをイメージし、設計する段階まで到達した。
- (5) 探求することに対するモチベーションが向上した。
- (6) 良好な学習態度が見られるようになった。

など、良好な成果が得られつつある。

7、問題点、改善策、後期での対応等

- (1) ゼミ生と教員のスケジュール合わせ（実施曜日、時間）が困難である。
（本学科では、機械システムコースと自動車システムコースで時間割が異なるので、両コース生が混在すると、いっそう難しくなる）
教養ゼミ実施曜日を時間割に指定する必要がある。
- (2) 中には意欲のない学生もいる。これに対する対応が今後のテーマである。
- (3) 情報収集・分析に時間がかかり、整理して発表するまでの時間が不足した。
- (4) プレゼンテーション技法についてさらに指導し、改善したい。
などの指摘がある。特に(1)については、今後検討を要する。

8、その他

特記なし。

以 上

工学部 電子・ロボット工学科

教養ゼミ担当者氏名（代表） 安藤 詔生、栗延 俊太郎、三宅 雅保、
三谷 康夫、田中 聡、香川 直己、
土井 正好、沖 俊任（代表 沖 俊任）

1、ゼミ数とゼミの学生数

ゼミ数 2（小グループゼミの日は除く）

クラス1 担当：土井 正好 学生数 12名

クラス2 担当：沖 俊任 学生数 11名

ゼミ数 8（小グループゼミの日）

担当：学科全教員（8名） 各2～4名

2、前期実施内容（各回の内容等）

1回目（4/10）概要説明

2回目（4/17）数学テスト

3～9回目（4/24、5/1、5/8、5/15、5/22、5/29、6/5）小グループゼミ

10～15回目（6/12、6/19、6/26:2時限分、7/10:2時限分）ロボット製作

3、前期教養ゼミの成果等

- 数学基礎の学力底上げができた
- 学生と教員間の親密度が高まった
- 学生間の結びつきに寄与した
 - 比較的大きなグループが形成された
- ロボットの製作を通して「ものづくり」への興味の涵養
 - 空き時間に自主的にロボット製作を行う学生がいる
- ロボット作りを行っている計算機室が学生間（同学年のみならず）の交流に有効に働いている

4、問題点、改善策、後期での対応等

- 新しい教養ゼミで求められていることができていないのか
 - ◇ 礼儀、マナーなどについては、三蔵祭までの活動を通して指導する。
 - ◇ 授業の受け方、キャリアプランニングなどについては、三蔵祭後の教養ゼミのテーマとする

6、その他

工学部 情報工学科

教養ゼミ担当者氏名（代表） 尾関 孝史

1、ゼミ数とゼミの学生数

ゼミ数：2

学生数：12名と11名

2、前期実施内容（各回の内容等）

教科書「大学学びのことはじめ」に従い14回行った。

友達作り、自己紹介、カリキュラムの理解とシラバスの確認、図書館の訪問、大学祭の紹介、受講の心得、ノートの取り方、文章の要約と作文、口頭発表、マナー、手紙の作成、クリーンアップ（清掃活動）、履歴書の作成

3、前期教養ゼミの成果等

キャンパスライフを進める上での基本的な知識を習得できた。そして、文書作成や口頭発表といった技術の基本を学んだ。また、マナーや礼儀といった社会生活の基本や、清掃活動を通して環境問題への意識を持つことができた。更に、履歴書の作成を通して、過去の自分の活動を振り返り、今後のキャリアデザインの基礎とすることができた。

4、問題点、改善策、後期での対応等

推奨教科書「大学学びのことはじめ」をとりあえずやってみようということで教養ゼミの内容を従来の方法と大きく変えた。最初は、教科書に懐疑的だったが、内容が非常に基本的で重要であることに気づかされた。ただし、大学祭の計画・実施のように、テーマによっては少人数の教養ゼミとは合わないものもあった。情報工学科の授業としての教養ゼミは前期で終了であるので、後期は大学祭などの課外授業を通して、初年時教育を続けたい。

5、その他

共通教育初年次や各学科の事情のため、教養ゼミの内容が各学科バラバラのようである。福山大学の特徴とするのなら、教科書に従うなどして、ある程度統一したほうが良いのではないか。

工学部 建築・建設学科(建築系)

教養ゼミ担当者氏名（代表）：中山昭夫（1 年担任）

教養ゼミの実施形態は、H20 年度末に学科の教室会議、工学部教授会を経て議論された。結論は、H21 年度については、学科（あるいは系）ごとに前年度までの要領に沿って実施することに決まった。当学科建築系では、前年度までと同様、後期において半期分 15 回を実施することとしている。前期については、建築系では教養ゼミの内容を単位化して数年前から建築学概論を授業科目にしているため、これが前期の教養ゼミの内容となっている。このため、教養ゼミは、前期は行っていない。後期に関しては、後期が始まるまでに学科の系会議で検討の上、佐藤智明、他『大学学びの事始』をテキストにできるだけ全学共通の内容となるよう提案することとしている。後期のゼミは、講師以上の 11 教員で、37 名の一年生を 3-4 人で割り振り、少人数教育を実施することとしている。実施内容については上述の通りであり、詳細については未だ決めてなくて、今後系の会議で決定していくこととしている。

なお、建築・建設学科は、土木コースと建築系 3 コースがあるが、もともとは「建築学科」と「建設環境工学科」と独立した学科であったため、教育方針・カリキュラムが異なっている。したがって、教養ゼミもそれぞれの考え方で、コース別に分けて実施している点には留意願いたい。

生命工学部 生物工学科

教養ゼミ担当者氏名（代表） 原口博行

1、ゼミ数とゼミの学生数

8ゼミ

各ゼミの学生数は4もしくは5名

各ゼミの担当教員は、チューターとして学生にかかわる。

2、前期実施内容（各回の内容等）

オリエンテーションで

入学時オリエンテーションの際に教養ゼミとチューターの紹介

1回目 大学という組織について

大学というものは、これまでの高等学校や中学校とはその組織が大いに異なり、学生はそれに順じて諸手続きや学校生活を送らなければならない。そのことに関する解説。

2回目 生物工学科の歴史

所属する学科の理念とその開設がら現在に至る道のりを知り、大学で己のとるべきスタンスを築く一つのきっかけを与える。

3回目 巨大かぼちゃ大会

各グループで畑地の整備、苗の移植

この日以外にも適宜作業

4回目 談話会

教養ゼミで色々しようということで、皆でフリートーキング

5回目 缶けり大会

17号館の横で缶けりをしたら、16号館からうるさいと苦情がでたので、1号館噴水広場に移動ケイドロ(警察ト泥棒)を行い、大いに盛り上がった。

6回目 三蔵五訓と福山大学の歌

自分の建学の理念を知り、校歌を覚える

7回目 教務委員から

前期の中間なので、教務関係の確認事項解説。

8回目 インフルエンザについて

新型インフルエンザが流行の兆しがあるので、その一般的な対応とインフルエンザについての簡単な専門的（学術的）解説。

9回目 大学祭について

大学祭準備のアロマキャンドル作り

10回目 談話会

教員による、学生時代の話

11回目

生物学Ⅱの中間試験を行う日がないので、この日に行った。

12回目 教養とは

大学生と専門学校生の違い

教養教育科目と所謂教養 など

13回目 前期を終えるにあたり及び夏休暇について

前期試験が始まるにあたり

このほかに、スポーツ大会など

9、前期教養ゼミの成果等

前期の期間中にアンケートなどを行っていないので、具体的な数字として示すことは出来ないが、大学生活への導入として機能したと思われる。

10、問題点、改善策、後期での対応等

後期については

10月中は大学祭関係

その後は適宜題目提供を行う予定。

「4年間を通しての全カリキュラムから見た生物工学科」

「卒業後にはこのような進路選択がある」

「このような書物を読んだ」

「興味を持った社会的出来事」などを計画中。

5、その他

生命工学部 生命栄養科学科

教養ゼミ担当者氏名（代表） 井ノ内直良、倉掛昌裕

1、ゼミ数とゼミの学生数

ゼミ数：7

ゼミの学生数：4名

2、前期実施内容（各回の内容等）

全体ガイダンス2回、少人数ゼミをゼミナールと称して5回、野菜栽培実習5回を行った。ゼミナールについては実施案（資料1）を示したが、本質的には各担当者の実施計画で行った。各ゼミとも1回目に自己紹介、マナー教育など、2日目に図書館の見学と利用法の習得について行い3回目以降は、各ゼミにて実験、演習、テーマ討論、一般のコミュニケーションなど様々なものとなった。野菜栽培実習では調理で使う食材作りと鑑別について学んだ。共同作業することによりコミュニケーション力や協調性を養うことになる。

<前期日程>

4月30日（木）5時限 全体ガイダンス1：講義での学習法、教養ゼミの内容説明など

5月13日（水）4時限 教養ゼミナール第1回：自己紹介、マナー教育など

5月27日（水）4時限 教養ゼミナール第2回：図書館の見学と利用法の習得

6月 3日（水）5時限 野菜栽培実習 第1回：トマト栽培の解説

6月10日（水）4時限 教養ゼミナール第3回

5時限 野菜栽培実習 第2回：トマト苗の植え付け

6月17日（水）5時限 野菜栽培実習 第3回：支柱立て

6月24日（水）4時限 教養ゼミナール第4回

7月 1日（水）5時限 野菜栽培実習 第4回：芽欠き

7月 8日（水）4時限 教養ゼミナール第5回

5時限 野菜栽培実習 第5回：ホルモン処理

7月15日（水）5時限 全体ガイダンス2：アンケート、夏休みの課題など

3、前期教養ゼミの成果等

- ・ 少人数ゼミでは学生と教員、学生同士でコミュニケーションをとることができた。
- ・ 学生各人の考え、大学での勉強の不安などについて知ることができた。
- ・ テーマ学習については自主的に質問する学生もみられた。
- ・ 挨拶などのマナーが身に付いた。
- ・ 学生のアンケートでは比較的良い結果であった。（資料 2）

4、問題点、改善策、後期での対応等

- ・ 前期ということもあり、コミュニケーション、マナー、学生相談などが中心となり、実施案での学習スキルである作文、テーマ発表、テーマ討論などの時間があまり取れなかった。
- ・ 大学での講義や勉強法がわからなく不安になる学生が多いようであるので、補習や、勉強方法に関するスキルの習得が必要であることがわかった。来年はこの点を考慮したい。今年度は後期の教養ゼミで補う予定である。
- ・ 同一の教育内容を各担当者が足並み揃えて行うのは困難のようであり、ある程度の自由度が必要かと思われる。
- ・ 学生の評価法について検討が必要である。

後期には、ゼミナール、野菜実習に加え大学祭の計画、準備、実施が加わる。少人数ゼミナールは新たに班分けして 5 回行う予定である。教員も全員が担当できるように振り分ける。

5、その他

<資料 1 ; 生命栄養科学科>

前期 1 年生ゼミナール日程(予定)と実施案

（内容は 1 例です。教養ゼミの趣旨の元でご自由にお進めください。テーマに関する内容は 1 年生ですので、あまり専門的でない一般向けのものがいいと思います。）

第 1 回ゼミナール(5/13)

14 : 40 (18201 教室) 日程、内容等の説明、班分け

15 : 00 各ゼミ室へ入室

15 : 00 ~ 16 : 10 ゼミナール

① ゼミナールの日程など説明

② ゼミ室、教員室、事務室などへの訪問でのマナー等の諸注意

入室前・中・後にて：用件を頭の中で整理、筆記用具の用意、言葉遣い、文言等。

③ 自己紹介（名前、出身校、高校時代、特技・趣味、長所・短所、大学でしたいこと、将来等）

平成 21 年度 教養ゼミ実施状況（前期）

- ・その内容に関して話題が広がってゆくか？（コミュニケーション力）
- ・将来のことなどテーマを決め作文の宿題 800 字（例）次回に各自朗読

④ 学生生活などに関する相談。

第 2 回ゼミナール(5/27) 14:40～16:10 各ゼミ室

- ① 作文の発表と質問
- ② 文章（表現）に関するアドバイス（話の流れ、語彙など）
問題があれば再提出
- ③ 講義ノートチェック
 - ・理解できるノートか、内容について発表してもらい質問などする。
 - ・ノートの取り方と整理についての助言
 - ・教科書の文章のまとめ方（演習問題を用意するのもいいと思います）
内容の理解、要点の抽出、整理
- ④ 学生生活などに関する相談。

第 3 回ゼミナール(6/10) 14:40～16:10 各ゼミ室

- ① 講義ノートの再チェック
- ② ゼミテーマの説明
- ③ 各人のテーマの選択（予め用意したものから、あるいは本人の希望）
 - ・あまり専門性が高くない一般向けの内容が適当と思われます。
- ④ 文献調査、発表内容の検討、レジメ作成、発表方法などについて説明
テーマ、発表者名、背景、現状、図表、今後、問題点、まとめ、参考文献
- ⑤ 調査のための図書館の利用法の説明（理解し、実際に実行できるように）
検索、コピーの仕方、他大学への文献複写依頼、ネットサービス等
- ⑥ 学生生活などに関する相談。
- ⑦ 時間があれば実行に。（18201 教室、図書館など利用）

第 4 回ゼミナール(6/24) 14:40～16:10 各ゼミ室

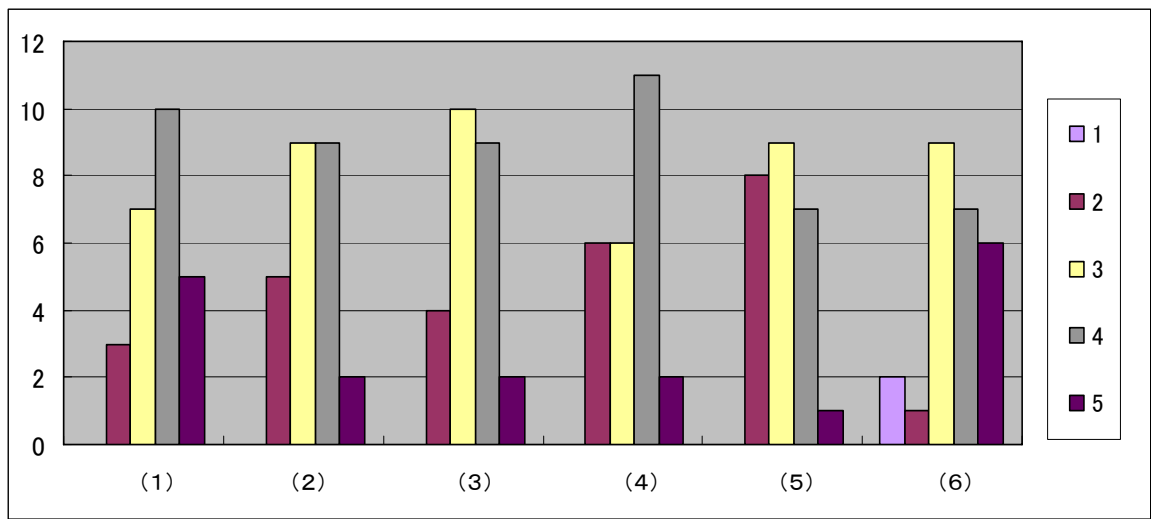
- ① レジメの配布と発表
- ② 発表毎に討議（各自、質問、意見を言う）
- ③ 講評、レジメの表現チェック
- ④ 質問、疑問点について調査し、回答文を作成（宿題）
- ⑤ 学生生活などに関する相談。
- ⑥ 時間があれば実行に。（18201 教室、図書館など利用）

第 5 回ゼミナール(7/8) 14:40～16:10 各ゼミ室

- ① 発表討論のまとめとレジメ修正版の提出
- ② 質問、疑問点についての回答と各自の意見（ディスカッション）
- ③ 講評、レジメの文章、表現チェック
- ④ 学生生活などに関する相談。

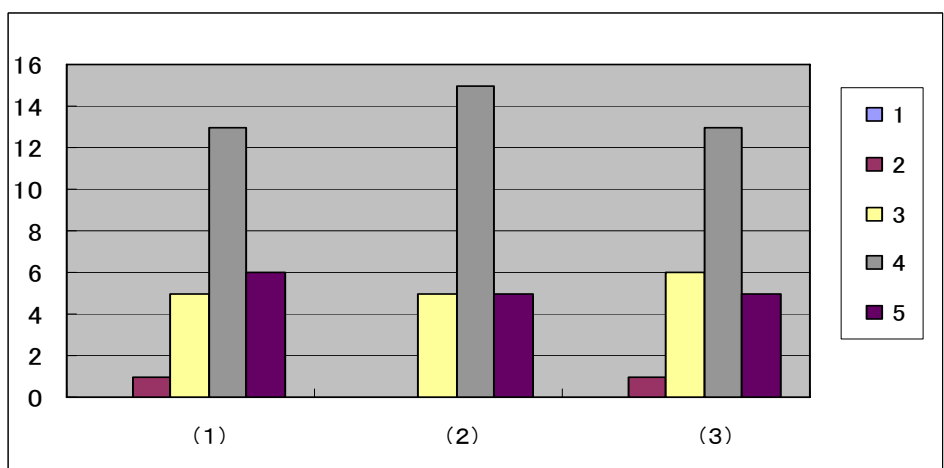
<資料 2 : 生命栄養科学科>

1年生教養ゼミアンケート調査 H21.7.15. 1年生25名(2名欠席)



ゼミナール

- (1)ゼミナールでの内容に関心を持てたか。
- (2)大学での学習法に役立ったか。
- (3)大学生活に役立ったか。
- (4)コミュニケーション能力の向上
- (5)自己表現力(文章表現、発表等)の向上
- (6)満足度



野菜栽培実習

- (1)トマトの栽培法について理解したか。
- (2)食材作りである野菜栽培に関心を持ったか。
- (3)満足度

評価:5段階 (1→5 優)

生命工学部 海洋生物科学科

教養ゼミ担当者氏名（代表） 三輪泰彦

1、ゼミ数とゼミの学生数

ゼミ数：12

ゼミの学生数：6-7 名

2、前期実施内容（各回の内容等）

- 1) 履修方法の補足と確認—履修届のチェック、学生住所録および健康保険カードの提出、履修登録の確認
- 2) 自己紹介
- 3) 個人面談—学生生活、欠席調査など
- 4) スポーツ大会（新入生歓迎ソフトボール大会）
- 5) 大学祭の展示企画—グループディスカッション
- 6) 大学祭の展示企画—全員でディスカッション
- 7) 定期試験への心構え
- 8) 水族館見学（玉野海洋博物館）

3、前期教養ゼミの成果等

- ・少人数体制で行ったので学生と教員、学生同士でコミュニケーションを十分にとることができた。
- ・グループ討議では一部の学生が積極的に発言するなど学生の特性を引き出すことができた。
- ・学生生活や教務（履修方法、定期試験への対応など）についてサポートすることができた。
- ・プロダクトとして大学祭の展示企画（テーマ、展示内容、必要物品等）についてまとめることができた。

4、問題点、改善策、後期での対応等

- ・授業内容の一部変更がみられたため、ガイダンスでは授業のねらいを十分に説明することができなかった。
- ・授業内容を各担当者に詳細に伝えることができないことがあったので後期から授業内容等を周知することが求められる。
- ・今回、試験によって学習者の評価を数値化することができないので教育の成果（知識、技能、態度）を客観的に評価することが難しいと思われる。

5、その他

薬学部

教養ゼミ担当者氏名（代表） 岡村信幸

1、ゼミ数とゼミの学生数

薬学入門Ⅰ（新入生全員＋留年1年生3名）とコミュニケーション（2年生全員＋留年1年生1名）の科目内において、教養ゼミを実施している。

2、前期実施内容（各回の内容等）

薬学入門Ⅰ（担当責任者：岡村信幸）

クラス担任（8名）ならびに担当教員（5名）がクラス単位で毎週チュートリアルSGDを行った後、病院ならびに保険薬局での早期体験学習を行う。

※日程表・方略・実施施設は別紙参照

コミュニケーション（交流学习）（担当責任者：田中正孝）

コミュニケーションの講義・演習後、担当者（16名）とともに保育園ならびに高齢者施設に赴き、1対1のパートナーによる8回の交流学习を行う。

※日程表・実施施設は別紙参照

3、前期教養ゼミの成果等

学生が主体となり学習し、体験し、情報共有し、『気づきの学習』を実践することは、学生の行動変容のためのきっかけ作りになる。上記の学習により、次の事項について向上ならびに醸成を得たと考える。

- ・学生－教員間ならびに学生同士のコミュニケーションの活性化
- ・薬学生としてのモチベーションの醸成
- ・情報の収集と処理ならびにプレゼンテーションなどの能力の向上
- ・能動学習のための動機づけ
- ・問題解決能力の向上
- ・キャリアデザインの醸成
- ・挨拶、マナー等の社会性の涵養

4、問題点、改善策、後期での対応等

学生ならびに実施施設からのアンケート調査によって、毎年改善を行っている。今年度の薬学入門Ⅰの反省点は、後期開講の薬学入門Ⅱで改善する。

5、その他

平成 21 年度 教養ゼミ実施状況（前期）

薬学入門前期（平成21年度）

4 月			5 月			6 月			7 月					
			3	4	5		3	4	5		3	4	5	
			1 金			1 月	中間試験			1 水	方略5A P2（予備日）			
			2 土			2 火				2 木				
			3 日	憲法記念日				3 水		3 金	方略5A P4（予備日）			
			4 月	みどりの日				4 木		4 土	菅先生 方略6 ※1, 2限目			
			5 火	こどもの日				5 金		5 日				
6 月		3 4 5	6 水	振替休日			6 土		6 月		方略5B P3			
7 火			7 木			7 日			7 火	方略5B P1				
8 水	合宿オリエンテーション		8 金	方略3B P4			8 月	方略5A P3		8 水	方略5B P2			
9 木			9 土			9 火		方略5A P1		9 木				
10 金			10 日			10 水		方略5A P2		10 金	方略5B P4			
11 土			11 月	方略3B P3			11 木			11 土	方略5C ※1, 2限目			
12 日			12 火	方略3B P1			12 金	方略5A P4		12 日				
13 月	方略1 P3		13 水	方略3B P2			13 土			13 月				
14 火	方略1 P1		14 木			14 日			14 火					
15 水	方略1 P2		15 金	開学記念日			15 月	方略5A P3		15 水				
16 木			16 土			16 火		方略5A P1		16 木				
17 金	方略1 P4		17 日			17 水		方略5A P2		17 金				
18 土			18 月	方略4 P3			18 木			18 土				
19 日			19 火	方略4 P1			19 金	方略5A P4		19 日				
20 月	方略3A P3		20 水	方略4 P2			20 土			20 月	海の日			
21 火	方略3A P1		21 木			21 日			21 火					
22 水	方略3A P2		22 金	方略4 P4			22 月	方略5A P3		22 水	前期定期試験			
23 木			23 土			23 火		方略5A P1		全体説明会場 1021講義室 スモールグループディスカッション会場 4, 5月:10号館2階実習室(北側) 6, 7月:31号館2階実習室(北側)				
24 金	方略3A P4		24 日			24 水		方略5A P2						
25 土	石原先生 方略2 ※1, 2限目		25 月			25 木			25 木					
26 日			26 火			26 金	方略5A P4		26 金					
27 月			27 水			27 土			27 土					
28 火			28 木			28 日			28 日					
29 水	昭和の日		29 金			29 月	方略5A P3（予備日）		29 月					
30 木		水曜振替	30 土			30 火	方略5A P1（予備日）		30 火					
			31 日											

平成 21 年度 教養ゼミ実施状況 (前期)

薬学入門前期方略 (平成21年度)

方略	到達目標	日	細目	学習内容	場所	人的資源	時間(分)	備考		
1	【SGDについて】 SGDの概略ならびに意義を認識する。 【今心にあること】 希望、期待、不安を認識する。	4月13～17日 ※詳細は 日程表参照	1-1	講義		1021	田村先生 担任	30		
			1-2	SGD	「今心にあること(希望、期待、不安)」を抽出する(KJ法)	10号館2 階実習室	担任	15	資料配布:課題(1) 「今心にあること」をタック シールに書き出す	
			1-3	SGD	「今心にあること(希望、期待、不安)」の島とタイトルを作成する(KJ法)	10号館2 階実習室	担任	40	模造紙に島とタイトルを 作成する	
			1-4	SGD	今日からできること(今後の行動目標)	10号館2 階実習室	担任	30	資料配布:課題(2)	
			1-5	発表	発表・質疑(各5分)	10号館2 階実習室	担任	60	クラス別発表	
2	【マナー・コミュニケーション】 マナーやコミュニケーションの基本である相手の気持ちに配慮する感覚を認識する。	4月25日(土) 1, 2時限	2	講義	1021	石原	180	レポート提出		
3	【薬とその適正使用】 1. 「薬とは何か」を討議し、概説できる。 2. 種々の剤形とその使い方について討議し、概説できる。 3. 一般用医薬品と医療用医薬品の違いを討議し、概説できる。 4. 医薬品の適正使用における薬剤師の役割について討議し、概説できる。 【病院ならびに保険薬局における薬剤師の役割】 1. 病院ならびに保険調剤薬局の役割について調べて討議し、医薬分業を概説できる。 2. 薬剤師と共に働く医療チームの職種を挙げ、その仕事を概説できる。 3. 見学施設への質問内容について調べ討議する。	4月20～24日 ※詳細は 日程表参照	3A-1	SGD	シナリオから問題点を抽出	10号館2 階実習室	担任	20	シナリオ配付 問題点をホワイトボード に書き出す	
			3A-2	SGD	抽出した問題点について討議する	10号館2 階実習室	担任	40	ホワイトボードに意見を 書き出す。	
			3A-3	調査	SGDでの疑問点について調査	10号館3 階図書館	担任	90		
		自己学習		調査課題(SGDでの疑問点などについて)・まとめ						
		5月7～13日 ※詳細は 日程表参照	3B-1	SGD	調査結果の討議、発表準備	10号館2 階実習室	担任	50	ホワイトボードにまとめる	
			3B-2	SGD	発表(5分)・全体討議(テーマ毎10分)	10号館2 階実習室	担任	60	クラス別発表 発表:ホワイトボード	
			3B-3	SGD	見学施設への質問内容を討議	10号館2 階実習室	担任	40	見学施設日程表を配布	
自己学習		調査課題(見学施設への質問内容や見学施設に関する情報について)								
4	【事前学習】 1. 見学施設におけるマナーならびに注意点を討議する。 2. 見学施設への事前連絡の仕方ならびに質問内容について討議する。	5月18～22日 ※詳細は 日程表参照	4-1	SGD	訪問時の注意点や事前連絡の仕方について討議	10号館2 階実習室	担任	30	ホワイトボードに まとめる	
			4-2	発表	発表(3分)・討議(5分)			60	発表:ホワイトボード	
			4-3	DVD	発表準備(注意事項や質問内容など)	1021	岡村	40		
			4-4	SGD	訪問時の注意点や事前連絡の仕方や見学施設への質問内容を再討議	10号館2 階実習室	担任	40		
			4-5	SGD	質問票の作成			20	質問票の雛形配付 USBメモリー持参	
		5月18日～29日	質問票提出	質問票・自己紹介表を担任に提出(方略4終了翌日:P4のみ26日)	※担任は質問票・自己紹介表を点検後5/29までに施設へFAX					
			事前連絡	見学施設(指導薬剤師)へ連絡し、事前に訪問時間等を調整						
自己学習	質問内容や専門用語について充分学習しておく									
5	【早期体験学習】 1. 病院における薬剤師および他の医療スタッフの業務を見聞し、その重要性について自分の意見をまとめ、発表する。 2. 保険薬局における薬剤師の業務を見聞し、その重要性について意見をまとめ、発表する。	6月8～26日 ※詳細は 日程表参照	5A	見学	体験学習	病院	VF	60～ 240		
			薬局	60～ 240						
		自己学習		討議・まとめ・発表準備						
		7月6～10日	5B	SGD	後期実習施設選択発表準備	31号館2 階実習室 PC室	担任	90 x3	施設選択票の配付・回収 P4は10号館2階D1室	
7月11日	5C	発表	発表・討議(各5分)	※1	担任	180	クラス別公開発表会 (施設単位)			
6	【総括】 行動変容のための役立ち感と幸せについて気づきの学習をする。	7月4日(土) 1, 2時限目		講義	31101	菅	180			

※1) P1クラス:1021教室 P2クラス:1022教室 P3クラス:31101教室 P4クラス:31201教室 (予定)

平成 21 年度 教養ゼミ実施状況（前期）

クラス	担当教員	実 施 日				実施施設
		6月9日	6月16日	6月23日		
P1A	福長教授	6月9日	6月16日	6月23日		アプロ松永薬局
		6月9日	6月16日	6月23日		エクスプレス薬局
P1B	本屋敷准教授	6月9日	6月16日	6月23日		サン・メディカル薬局松永店
		6月9日	6月16日	6月23日		みのり薬局
P2A	藤岡教授	6月10日		6月24日		松永ファミール薬局
		6月10日	6月17日	6月24日		エル調剤薬局
P2B	道原講師	6月10日	6月17日	6月24日	7月1日	たんぼぼ薬局
		6月10日	6月17日			清水薬局
P3A	田中教授	6月8日	6月15日			けんたろう薬局
		6月8日		6月22日		くるみ薬局
P3B	田村准教授		6月15日	6月22日		キョーエイ薬局本店
		6月8日	6月15日	6月22日		にこびん薬局瀬戸町店
P4A	大濱教授		6月19日		7月3日	ゆうゆう薬局
		6月12日	6月19日			今津薬局
P4B	佐藤准教授			6月26日	7月3日	松永エル薬局
		6月12日	6月19日			木之庄薬局

平成 21 年度 教養ゼミ実施状況（前期）

クラス	担当教員	実 施 日				実施施設
		6月9日	6月16日			
P1A	福長教授	6月9日	6月16日			福山市民病院
				6月23日	6月30日	小島病院
P1B	本屋敷准教授	6月9日	6月16日			三原赤十字病院
		6月9日	6月16日			三菱三原病院
P2A	藤岡教授	6月10日	6月17日			中国中央病院
		6月10日	6月17日			尾道総合病院
P2B	道原講師	6月10日	6月17日			寺岡整形外科病院
		6月10日	6月17日			神原病院
P3A	田中教授	6月8日	6月15日			楠本病院
		6月13日 (土)		6月27日 (土)		福山記念病院
P3B	田村准教授	6月8日	6月15日			公立みつぎ総合病院
		6月8日		6月22日		日本鋼管福山病院
P4A	大濱教授	6月12日	6月19日			興生総合病院
		6月12日	6月19日			倉敷中央病院
P4B	佐藤准教授			6月26日	7月3日	福山医療センター
		6月12日	6月19日			福山第一病院

コミュニケーション日程表（2009）

4月10日	オリエンテーション（全体） 気づきの学習	1022 教室
4月17日	気づきの学習 交流学习オリエンテーション（全体）	1022 教室
4月24日	交流分析（菅先生） 交流学习オリエンテーション（各施設）	1022 教室
5月1日	交流学习 1	各施設
5月8日	交流学习 2	各施設
5月15日	（開学記念日）	
5月22日	交流学习 3	各施設
5月29日	交流学习 4	各施設
6月5日	（中間試験）	
6月12日	交流学习 5	各施設
6月19日	交流学习 6	各施設
6月26日	交流学习 7	各施設
7月3日	交流学习 8	各施設
7月10日	交流学习のまとめ	31101 教室
7月11日	交流学习のまとめ	31101 教室
7月17日	交流学习のまとめ	31101 教室

コミュニケーション施設

施 設 名
社会福祉法人加茂福祉会 なかよし保育園
社会福祉法人 白梅会 御幸南保育所
医療法人社団涼風会 佐藤脳神経外科 通所リハビリテーション 帆かけ舟
特定施設入居者生活介護 ゆーとぴあ
社会福祉法人天和会 身体障害者療護施設 ローズ東村
株式会社メディカジャパン 福山ケアセンター そよ風
医療法人社団城山会 石井内科胃腸科医院 デイサービス城山